



エコアクション21環境経営レポート

対象期間 2022年度(2022年4月～2023年3月)

作成日 2023年8月25日

〈第11版〉

Hagoromo はごろもフーズ

目次

社長ごあいさつ	1
環境経営理念・環境経営方針	2
1. 取組の対象組織・活動	3
2. 推進体制	6
3. 中期環境経営目標	7
4. 環境経営目標と実績（運用期間）	8
5. 環境経営活動計画の取組結果と評価および 次年度の取組内容	13
6. 環境教育	14
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認および 評価の結果並びに違反、訴訟の有無	14
8. 地域環境経営活動および各種活動の評価	15
9. 代表者による全体の評価と見直し	15

社長ごあいさつ

「環境」と言えば、私はシンプルに次世代の子供たちに残していくべき「青い地球」そのものと考えます。当社の製品の多くは、天産物が主原料です。魚は海水温が1℃変化するだけで、生息域が変化すると言われていています。環境の変化に大きく影響を受ける当社は、生物多様性を守ることが重要な経営課題であると考えます。缶詰は、リサイクル率の高い製品です。これは、環境に働きかけることが出来る、当社の強みです。しかし、それだけではまだ足りない事も多いでしょう。企業として行えることは、環境に配慮した機器の導入や、ペーパーレス化などが挙げられます。こちらは、現在も継続していますが、今後も積極的に取り入れていきたいと考えます。また、当事者意識が重要です。家庭の省エネは気にするのに、会社ではそうでない。資源・エネルギーは家庭や会社でも同じように環境に影響します。各人が当事者意識を持ち、それを日々、継続していくことが実を結ぶと考えます。

日々目まぐるしく変わる環境に柔軟に対応し、創業100周年に向け、持続可能な社会への貢献と、信頼されるブランド、更なる企業価値の向上に私自ら先頭に立ち、当事者意識を持って、前進し続けたいと思います。

2022年度のエコアクション21環境経営活動の結果を、環境経営レポートにまとめ公表させていただきます。皆様との環境コミュニケーションを今後も継続することをお約束します。

2023年8月4日



代表取締役社長 後藤 佐恵子



環境経営理念

はごろもフーズは、人と地球に愛される企業を目指し、安全で環境にやさしい食品の製造・販売に努めます。地域社会と共生していく企業として環境保全活動に取り組みます。

環境経営方針

1. エコアクション 21 を全社運動として展開し、SDGs の目標達成に向けて取り組みます。
2. 環境関連法規、条例、規制基準を遵守します。
3. 環境への影響を考慮し、目標を定め、製品の製造、流通・販売の全過程で、資源・エネルギー、二酸化炭素排出量、水使用量を削減します。
4. 廃棄物の発生抑制、減量化を推進します。
5. 食品リサイクル率 100% を達成します。
6. 教育・啓発活動を計画的に推進し、環境に対する従業員の意識の向上、環境保全に関する社内体制の充実を図ります。
7. 持続可能な社会を築くため、ペーパーレス化を推進します。

制定日 2011 年 11 月 7 日

改定日 2019 年 10 月 15 日

代表取締役社長 後藤 佐恵子

1. 取組の対象組織・活動

(1) 名称および代表者

名称：はごろもフーズ株式会社

代表者：代表取締役社長 後藤 佐恵子

(2) 事業所所在地 (2023年4月現在)

a. 本社

○本社

静岡県静岡市駿河区南町 11 番 1 号 静銀・中京銀静岡駅南ビル 3F

○はごろもイノベーションセンター

静岡県静岡市清水区島崎町 151

b. プラント

○焼津プラント

静岡県焼津市大島 742

○富士山パスタプラント

静岡県静岡市清水区島崎町 151-1

○サンライズプラント

静岡県焼津市田尻 1855-24

○新木曾岬プラント

三重県桑名郡木曾岬町大字栄 288

○新清水プラント

静岡県静岡市清水区島崎町 159

c. 事業所

※ 3 支店 15 営業所 (● 統轄事業所 ● 傘下事業所)

● 札幌営業所

北海道札幌市中央区北 2 条東 1 丁目 2-10 日宝北 2 条ビル 405 号

● 仙台営業所

宮城県仙台市青葉区中央 3-2-1 青葉通プラザ 9 F

● 盛岡営業所

岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-3-10 スワンビル 1 F

● 東京支店

東京都中央区八丁堀 1-5-2 はごろもビル 9 F

● 千葉営業所

千葉県千葉市中央区栄町 36-10 甲南アセット千葉中央ビル 7 階-A

● 神奈川営業所

神奈川県横浜市港北区新横浜 2-12-1 新横浜光伸ビル 5 F

● さいたま営業所

埼玉県さいたま市大宮区吉敷町 4-13-2 大宮ダイヤビル 2F

● 新潟営業所

新潟県新潟市中央区米山 5-1-35 カレントさくら 4 階H

- 甲信営業所
長野県松本市野溝西 1-6-29 のみぞビル 202 号
- 静岡営業所
静岡県静岡市清水区島崎町 151
- 名古屋支店
愛知県名古屋市中区新栄町 2-9 スカイオアシス栄 12F
- 金沢営業所
石川県金沢市入江 2-54 中村ビル 3 F
- 大阪支店
大阪府大阪市都島区片町 2-2-48 J E I 京橋ビル 8 F
- 広島営業所
広島県広島市東区光町 2-4-8 ヒロテツ光町ビル 2 F
- 岡山営業所
岡山県岡山市北区駅前町 2-5-24 JR 岡山駅第 2NKビル 8 F
- 福岡営業所
福岡県福岡市博多区博多駅東 1-13-18 A Lビル 4 F
- 鹿児島営業所
鹿児島県鹿児島市加治屋町 15-9 鹿児島大同生命ビル 2 F
- 沖縄営業所
沖縄県那覇市天久 2-7-7 沖縄広告ビル 3 F

(3) 環境管理責任者氏名および担当者氏名・連絡先

環境管理責任者：取締役品質保証本部長兼品質保証部長兼H I Cセンター長
望月 浩志

担 当 者：品質保証部部長兼環境問題担当
古谷 智二郎

連絡先	品質保証部
〒424-0823	静岡県静岡市清水区島崎町 151 はごろもイノベーションセンター 電話 054-354-5013 FAX 054-355-0370
ホームページ	https://www.hagoromofoods.co.jp/

(4) 事業内容

食品事業を主な事業内容とし、他に太陽光発電事業等を行っています。

- ◎家庭用製品 : 各種魚介缶詰・果実缶詰・野菜缶詰・レトルトパウチ製品・包装米飯製品・パスタ製品・パスタソース製品・かつお削りぶし・のり・ふりかけ製品・ギフトセットなど
- ◎業務用製品 : 各種缶詰・レトルトパウチ製品・かつお削りぶし・のり・ふりかけ製品
- ◎その他製品 : ペットフード製品・フィッシュエキス製品など

主要製品ブランド名

「シーチキン」「シャキッとコーン」「サラスパ」「パパッとライス」など

(5) 事業の規模

売上高 : 704 億円 (連結)
従業員 : 692 人 (連結)
床面積 : 38,236 m² (5 工場合計)
 : 14,112 m² (本社、事業所他)

(6) 事業年度

当年 4 月 1 日 ~ 翌年 3 月 31 日

(7) 認証登録の対象組織・対象事業所と活動・対象期間

対象組織名 : はごろもフーズ株式会社
対象事業所 : 本社、事業所、焼津プラント、富士山パスタプラント、サンライズプラント、バイオプラント、熱田プラント、新木曾岬プラント、新清水プラントの全活動
対象期間 : 2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日

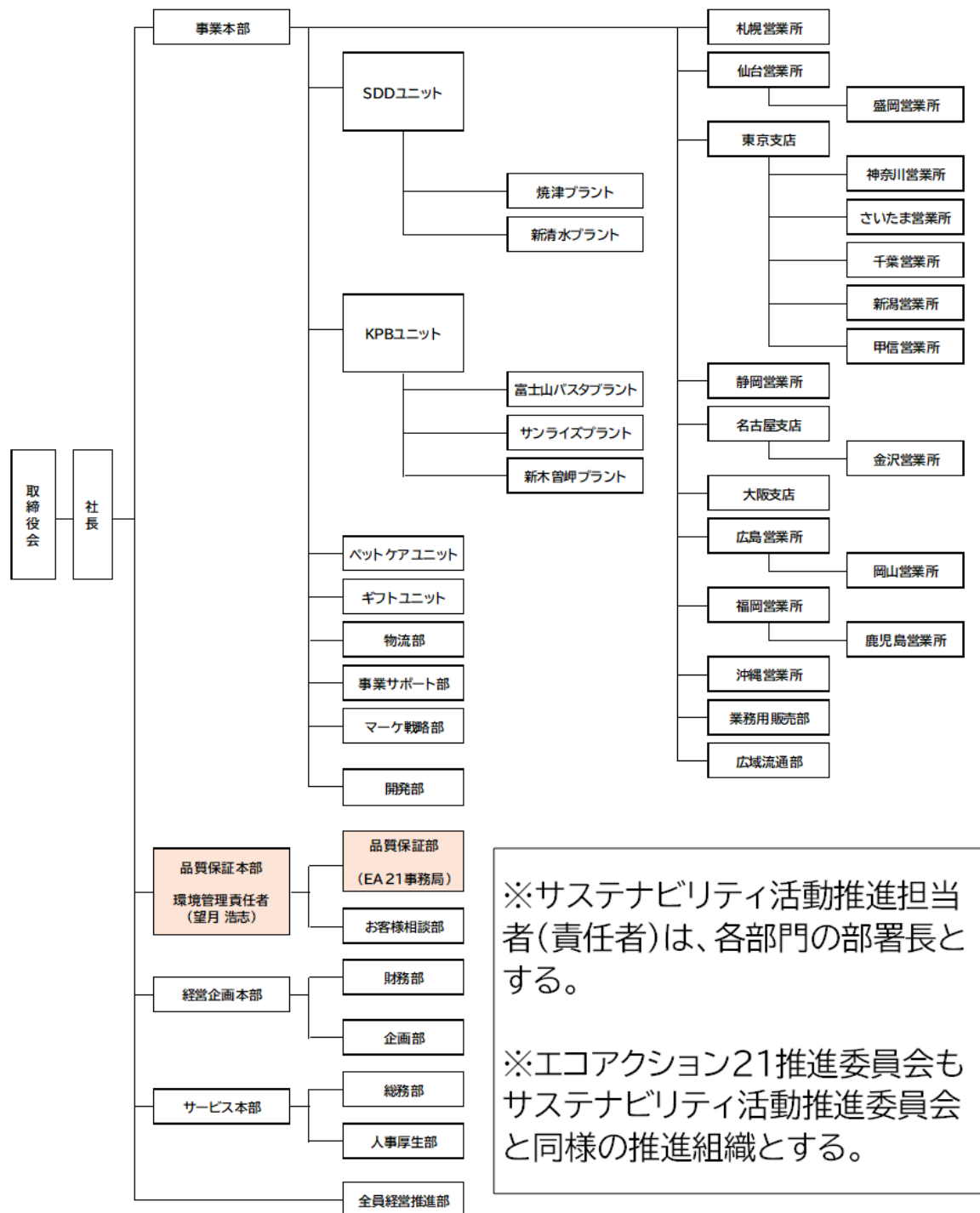
(8) はごろもフーズ グループビジョン

〈経営理念〉 「人と地球に愛される企業を目指します」
〈コーポレートメッセージ〉 「人と自然を、おいしくつなぐ」
〈合言葉〉 1. 全員経営 2. 明るく楽しく 3. 執念を持つ

2. 推進体制

(2023年4月現在)

(1) サステナビリティ推進体制図



(2) 推進体制の役割

代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表者。環境方針を定める。 ● 環境管理責任者の任命。 ● 環境経営に必要な経営資源(人財 設備 資金 情報)の用意。 ● システム全体の評価、見直しの実施。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ● システムの総責任者としての役割、権限を持つ。
E A 21 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体計画の立案、文書類の作成・管理。 ● システム運用上の事務管理。
内部環境監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> ● システムの適合性、運用状況を監査する。
E A 21 推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 部署内の環境経営活動を推進する。

3. 中期環境経営目標

(1) エネルギー使用量（原油換算）および二酸化炭素排出量

エネルギー消費原単位（製品重量あたり）および二酸化炭素排出量を2017年度比年率1%ずつ5年間削減することを目標としてきました。2023年度からは、2022年度実績を基準とし、毎年度、基準に対し1%の削減を目標とする。

		2017年度	2022年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
単位		基準年	95%	実績・基準	99%	99%	99%
原油換算	kl	6,311	5,995	6,126	6,059	6,059	6,059
原単位	kl/t	0.154	0.146	0.142	0.141	0.141	0.141
排出-CO ₂	t	12,143	11,536	11,336	11,223	11,223	11,223
原単位	t/t	0.296	0.282	0.2712	0.268	0.268	0.268

(2) 産業廃棄物排出量

2017年度比年率0.5%ずつ5年間削減することを目標としてきました。2023年度からは、2022年度実績を基準とし、毎年度、基準に対し0.5%の削減を目標とする。

		2017年度	2022年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
単位		基準年	97.5%	実績・基準	99.5%	99.5%	99.5%
産業廃棄物	t	1,022	997	858	854	854	854

(3) 食品リサイクル率（再生利用実施率）

食品廃棄物リサイクル化を推進し、食品リサイクル率100%維持を目標としてきました。2023年度からは、2022年度実績を基準とし、維持向上することを目標とする。

		2017年度	2022年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
単位		基準年	維持	実績・基準	維持向上	維持向上	維持向上
リサイクル率	%	100	100	99.4	99.4	99.4	99.4

(4) 水使用量

2017年度比年率0.5%ずつ5年間削減することを目標としてきました。2023年度からは、2022年度実績を基準とし、毎年度0.5%の削減を目標とする。

		2017年度	2022年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
単位		基準年	-0.5%	実績・基準	99.5%	99.5%	99.5%
水使用量	m ³	380,342	378,440	377,688	375,810	375,810	375,810
原単位	m ³ /t	9.282	9.050	9.046	9.000	9.000	9.000

(5) ペーパーレス

紙使用量の削減を図ります。

会議等でタブレットやPCを活用し資料のデジタル化や社内稟議・経費精算など電子化システムを導入していく。

4. 環境経営目標と実績(運用期間)

運用期間 2022年4月～2023年3月の実績は以下のとおり。

※①産業廃棄物の「動植物性残さ」に焼津プラントからバイオプラントに排出されるフィッシュミール製造用原料と富士山パスタプラントから排出される飼料用原料を加算。

評価方法 ○達成 ×未達成 △基準年より向上

(1) 全組織・活動範囲 合計

項目		単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価
				目標	実績	
エネルギー 使用量	ガス	千 m ³	2,832	2,690	2,397	○
			目標比(%)		89.1	
	購入電力	千 kWh	11,948	11,351	12,902	×
			目標比(%)		113.7	
	(原油換算)	Kl	6,311	5,995	6,126	△
			目標比(%)		102.2	
エネルギー使用量 原単位 (原油換算/生産重量)		kl	0.154	0.146	0.142	○
二酸化炭素排出量		t -CO ₂	12,143	11,536	11,336	○
二酸化炭素排出量 原単位 (排出量/生産重量)		t	0.296	0.282	0.271	○
産業廃棄物排出量		t	1,022	996	858	○
食品廃棄物発生量※①		t	3,336	—	1,426	—
再生利用量			3,336	—	1,365	—
再生利用以外の量			0	0	61	×
食品リサイクル率		%	100	100	99.4	×
水使用量		m ³	372,735	370,833	377,698	×
			目標比(%)		101.9	
水使用量 原単位 (水使用量/生産重量)		m ³	9.282	9.050	9.046	○
			目標比(%)		99.9	
7プラント生産重量合計		t	40,977	40,977	41,775	—

実績の評価

生産重量増加に伴い、購入電力が目標を超えましたが、原単位あたりのエネルギー使用量、二酸化炭素排出量は目標を達成。食品リサイクル率は、バイオプラント閉鎖に伴い、入荷済み原料などを焼却処理したため99.4%となった。

2023年度の課題

トラブル等によるエネルギー・製品のロス削減するとともに、より効率の良い製造を実施し、エネルギー使用量の絶対値ではなくエネルギー使用量原単位に注視し、エネルギー使用量、二酸化炭素排出量の削減を目指す。

(2) 主なエネルギー使用施設の実績

○焼津プラント

まぐろ・かつおを原料にしたツナ缶詰等を製造する工場です。

項目		単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価
				目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	706	671	458	○
	購入電力	千kWh	3,050	2,898	2,692	○
	(原油換算)	Kl	1,592	1,512	1,224	○
エネルギー使用量 原単位		kl/ t	0.122	0.116	0.117	△
二酸化炭素排出量		t -CO ₂	2,993	2,843	2,246	○
産業廃棄物排出量		t	530	517	206	○
食品リサイクル率		%	100	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	222,884	218,426	139,601	○
		m ³ / t	17.040	16.614	11.790	○
生産重量		t	13,079	13,079	10,455	—

実績の評価

生産重量の減少に伴い、エネルギー使用量・水使用量は削減できましたが、エネルギー使用量原単位は、目標を達成できませんでした。

○富士山パスタプラント IS014001 認証取得

パスタ製品を製造しています。1日当りの製造能力は77トン（スパゲッティ60トン、マカロニ17トン）です。

項目		単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価
				目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	328	312	354	×
	購入電力	千kWh	3,216	3,055	3,639	×
	(原油換算)	kl	1,188	1,129	1,323	×
エネルギー使用量 原単位		kl/ t	0.084	0.080	0.084	×
二酸化炭素排出量		t -CO ₂	2,223	2,134	2,479	×
産業廃棄物排出量		t	0	0	14	×
食品リサイクル率		%	100	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	8,145	7,941	9,905	×
		m ³ / t	0.580	0.566	0.630	×
生産重量		t	14,036	14,036	15,701	—

実績の評価

生産重量の増加に伴い、全体としては目標未達でしたが、エネルギー使用量原単位は基準年と同様となりました。



屋上には太陽光発電パネルを設置し、発電出力約 10kw で富士山パスタプラントの事務所、お客様見学通路の照明等に使用しています。

○サンライズプラント

包装米飯製品「パパッとライス」を製造する工場です。

項目		単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価
				目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	700	665	888	×
	購入電力	千 kWh	1,028	977	1,478	×
	(原油換算)	kl	1,150	1,093	1,406	×
エネルギー使用量	原単位	kl/t	0.364	0.346	0.349	△
二酸化炭素排出量		t-CO ₂	2,206	2,096	2,576	×
産業廃棄物排出量		t	44	43	62	×
食品リサイクル率		%	100	100	100	○
水使用量 原単位		m ³	85,529	83,391	115,687	×
		m ³ /t	27.080	26.403	28.750	×
生産重量		t	3,158	3,158	4,024	—

実績の評価

製造数量の増加に伴い、エネルギー・水使用量、産業廃棄物排出量が増加しましたが、エネルギー使用量原単位は、目標未達も基準年を下回りました。

○バイオプラント

まぐろ・かつおの加工残さを原料としてフィッシュミール・魚油等を製造する工場です。

項目		単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価
				目標	実績	
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	882	838	351	○
	購入電力	千 kWh	958	910	551	○
	(原油換算)	kl	1,301	1,236	549	○
エネルギー使用量	原単位	kl/t	0.290	0.276	0.419	×
二酸化炭素排出量		t-CO ₂	2,559	2,457	1,002	○
産業廃棄物排出量		t	20	19.5	68	×
食品廃棄物発生量		t	—	—	61	—
食品リサイクル率		%	—	—	—	—
水使用量 原単位		m ³	40,642	39,626	30,285	○
		m ³ /t	9.060	8.834	23.100	×
生産重量		t	4,485	4,485	1,311	—

実績の評価

焼津プラントのシーチキン製造に関する原料構成が冷凍原料から加工済み原料(冷凍ロイン)に大きく変わり、原料となる、マグロ血合い肉などの発生量が減少し、生産重量が減少したことにより、エネルギー・水の使用量は減少しましたが、原単位での目標は未達成となりました。

2023年3月をもって、工場を閉鎖しました。

○熱田プラント

かつお節等の魚節を削って、花かつお、削りぶし製品や小容量のかつおパック製品、ふりかけ、だしパックなどの乾物製品を製造する工場です。

項目	単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価	
			目標	実績		
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	140	133	31	○
	購入電力	千kWh	1,555	1,477	296	○
	(原油換算)	kl	560	532	70	○
エネルギー使用量 原単位	kl / t	0.174	0.165	0.189	×	
二酸化炭素排出量	t-CO ₂	1,033	981	207	○	
産業廃棄物排出量	t	77	75	19	○	
食品リサイクル率	%	100	100	100	○	
水使用量 原単位	m ³	13,288	12,956	2,220	○	
	m ³ /t	4.126	4.023	5.99	×	
生産重量	t	3,221	3,221	370	—	

実績の評価

乾物製品(削りぶし・のり・ふりかけ類)の製造工場再編に伴い、2022年6月に製造を終了しました。

○新木曾岬プラント

乾物製品(削りぶし・味付のり、焼のり加工品、ふりかけ類)を製造する工場です。

項目	単位	2017年度 基準年	2022年度運用期間		評価	
			目標	実績		
エネルギー 使用量	プロパンガス	千m ³	—	—	21	—
	購入電力	千kWh	1,134	1,077	1,710	×
	(原油換算)	Kl	292	277	496	×
エネルギー使用量 原単位	kl/t	0.103	0.098	0.170	×	
二酸化炭素排出量	t-CO ₂	537	516	859	×	
産業廃棄物排出量	t	79	77	93	×	
食品リサイクル率	%	100	100	100	○	
使用水量 原単位	m ³	3,099	3,022	5,445	×	
	m ³ /t	1.095	1.068	1.870	×	
生産重量	t	2,817	2,817	2,914	—	

実績の評価

乾物製品の製造工場再編に伴い、2022年9月より熱田プラントで製造していた削りぶし・ふりかけ類の製造を開始したことにより、エネルギー使用量原単位、使用水量原単位は未達成となりました。

○新清水プラント

まぐろ・かつお加工済み原料を使用しツナ缶詰を製造。

項目	単位	2021年度 実績	2022年度運用期間		評価	
			目標	実績		
エネルギー 使用量	都市ガス	千m ³	230	228	269	×
	購入電力	千kWh	1,802	1,784	1,936	×
	(原油換算)	kl	721	714	799	×
エネルギー 原単位	kl/t	0.113	0.112	0.114	×	
二酸化炭素排出量	t-CO ₂	1,343	1,330	1,488	×	
産業廃棄物排出量	t	118	117	139	×	
食品リサイクル率	%	100	100	100	○	
水使用量 原単位	m ³	61,422	61,115	71,580	×	
	m ³ /t	9.640	9.592	10.23	×	
生産重量	t	6,374	6,374	6,999	—	

実績の評価

2020年10月5日から1シフトで製造を開始し、2021年6月から2シフトでの製造を開始しました。2021年度実績を基準とし、エネルギー消費原単位を年1%低減することを目標としましたが、未達となりました。



太陽光発電システムが2022年12月より稼働。発電出力約205kwで、プラントの消費電力の約15%を自家消費しています。

○太陽光発電事業

・サンライズプラント太陽光発電設備

屋根および社用地 2,500 m²の面積にパネル 1,250 枚、発電出力 330kW で年間発電量は約 400,000kWh

・清水太陽光発電所

静岡市清水区にある貸倉庫の屋根にパネルを設置、発電出力 189 kW で年間発電量は約 220,000kWh



5. 環境経営活動計画の取組結果と評価（運用期間 2022 年 4 月～2023 年 3 月） および次年度の取組内容

（1）2022 年度環境経営活動計画の取組結果 部署取組状況

部署	エネルギー 使用量	二酸化炭素 削減	水使用量	産業廃棄物 排出	食品リサイ クル率	環境教育
本社・事業所	×	×	○	○	○	○
焼津プラント	○	○	○	○	○	○
富士山パスタプラント	×	×	×	×	○	○
サンライズプラント	×	×	×	×	○	○
バイオプラント	○	○	○	×	×	○
熱田プラント	○	○	○	○	○	○
新木曾岬プラント	×	×	×	×	○	○
新清水プラント	×	×	×	○	○	○

（十分できた・できた○ かわらず＝ できなかった△）

（2）活動取組の主要実績

①ペーパーレス化

会議等でタブレットやPCを活用し資料のデジタル化を推進。
勤怠管理・経費精算等順次電子システムを導入。
工場・品質保証部などの管理記録表のデジタル化を推進。



②社用車

業務内容にあわせ、コンパクトカーやハイブリット車、軽自動車など二酸化炭素排出量の少ない車両に順次入れ替えを実施。

ガソリン使用量は 85,057 リットル（前年度比 81.3%）となりました。

(3) 2023年度(次年度)の環境経営活動計画重点課題

本社・事業所	
本社・事業所	<input type="checkbox"/> クールビズ・ウォームビズの徹底 <input type="checkbox"/> 時間外労働時間の更なる削減 <input type="checkbox"/> 各種申請書類等の電子化による紙使用量の削減 <input type="checkbox"/> エコドライブの推奨 <input type="checkbox"/> eco 検定受験推進
プラント	
焼津	<input type="checkbox"/> 脱臭装置送風機等の運転状況注視による節電対策 <input type="checkbox"/> 産業廃棄物発生量の削減 <input type="checkbox"/> 排水処理に使用する薬剤削減による省資源化 <input type="checkbox"/> eco 検定受験推進
新清水	<input type="checkbox"/> コンプレッサー、エアコンの運転状況注視による節電対策 <input type="checkbox"/> 産業廃棄物排出量の抑制 <input type="checkbox"/> eco 検定受験推進
富士山パスタ	<input type="checkbox"/> 廃熱・エアリーク対策の実施 <input type="checkbox"/> 製品水分値の管理を徹底し、歩留まりの向上を目指す <input type="checkbox"/> 包材ロス削減を図り、廃棄物の発生を抑制する <input type="checkbox"/> eco 検定受験推進
サンライズ	<input type="checkbox"/> 製品やエネルギーのロスにつながるトラブルを防ぎ、効率の良い製造をする <input type="checkbox"/> eco 検定受験推進
新木曾岬	<input type="checkbox"/> 乾物製品製造工場再編により、効率の良い製造をする <input type="checkbox"/> 資材不良率削減、廃棄物削減 <input type="checkbox"/> eco 検定受験推進

6. 環境教育（従業員教育）

東京商工会議所主催の環境社会検定(e c o 検定)の学習受験を全社員に推奨しています。合格者には「エコアクション21ナビゲーター」として社内認定証を授与しています。2023年8月までで「エコアクション21ナビゲーター」が337名(延べ人数)となりました。社員の環境に対する意識が高まり、環境学習に「挑戦」する社員が増えています。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果並び違反・訴訟等の有無

焼津プラント:G 富士山パスタプラント:P サンライズプラント:S 新木曾岬プラント:K
 新清水プラント:SS
 各確認者(工場長)

遵守状況確認日 2023年3月31日

適用法令	適用事業所							対象	内容 確認事項
	G	P	S	B	A	K	SS		
環境基本法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	全社	●環境に関する基本理念、事業所の責務と遵守事項を定める。
大気汚染防止法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ボイラー	●ばい煙、窒素酸化物濃度の遵守。 ●事故時の応急措置、届出。
水質汚濁防止法	<input type="checkbox"/>	—	<input type="checkbox"/>	—	—	—	—	排水処理施設	●排水基準の遵守。・水質保全に関する項目(pH、BOD、SS、DO等)大腸菌群数等基準以下遵守。●水質測定、記録。
振動規制法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	製造設備	●振動基準値内確認。
騒音規制法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	製造設備	●作業時間毎の騒音基準値内。 ●特定施設届出。
悪臭防止法	<input type="checkbox"/>	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—	—	●臭気の基「特定悪臭物質」の規制。自治体へ報告。

浄化槽法	○	—	○	○	○	○	—	浄化槽設置事業所	●浄化槽を設置の届出確認●保守点検、清掃の規制遵守。●公共用水域等の水質の保全のため浄化槽でのし尿及び雑排水の適正な処理。
フロン排出抑制法	○	○	○	○	○	○	○	全社	●主務大臣が定める指針に従い設置等すべての機器に対して損傷防止等環境の維持保全を求める●漏洩点検の為に機器の「簡易点検」及び「定期点検」の実施記録・保管(専門業者依頼可)。
消防法	○	○	○	○	○	○	○	—	●工場または作業場従業員50人以上、防火管理者の届出、消防計画の作成。
食品循環資源の再利用等の促進に関する法律	○	○	○	○	○	○	○	—	●年間100トン以上の食品廃棄物等発生量の食品関連事業者対象。定期報告6月提出。●食品廃棄物の発生抑制再利用アップ●食リ率80%以上維持向上
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律	—	—	—	—	—	—	—	全社	●エネルギー管理統括者、企画推進者の●定期報告書、中長期計画書提出。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	○	○	○	○	○	○	全社	●産業廃棄物の保管場所の表示。●収集運搬・処理業者との委託契約、許可証確認。

(1)当社に関連する環境関連法規等(上記リスト)の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

(2)2022年度は、外部からの環境上の苦情・指摘などはありませんでした。

8. 地域環境経営活動および各種活動の評価

東京商工会議所ホームページに、当社はeco検定推進企業として、環境経営レポートが紹介掲示されています。 <http://www.kentei.org/eco/suishin.html>

9. 代表者による全体の評価と見直し

(1)環境管理責任者からの実績報告と提言

生産重量の増加によりエネルギー使用量(原油換算)は、目標を達成出来ませんでした。基準年より向上し原単位あたりのエネルギー使用量は目標を達成しました。食品リサイクル率は、バイオプラントから排出した原料を焼却処理したため99.4%となりました。

2023年度は、工場の再編・閉鎖により、エネルギー使用量の絶対値ではなくエネルギー使用量原単位を注視し効率の良い製造を実施、トラブル等によるエネルギー・製品のロスを削減し原単位あたりのエネルギー使用量の削減を目指します。

(2) 環境管理責任者からの見直し関連情報

	項目	検討事項・課題	
見直し 関連 情報	1	E A 21 文書	分かりやすい表現を継続検討する。
	2	環境経営目標および目標達成状況	部署内での状況把握を推進する。
	3	環境経営計画および取組状況	計画に定量・定数を明確にする。
	4	環境関連法規要求一覧および取組状況	部署長による確認の実施。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	部署における対応内容の記録確認。
	6	問題点の是正・予防処置の実施状況	内部環境監査項目を精査する。
	7	環境関連要求事項の変更、外部動向等	環境関連協会等の積極的活用。
	8	現場の環境教育訓練の課題	従業員の環境教育の充実を図る。

(3) 代表者の全体の評価と見直し指示事項

レビュー・ アウトプット	安心安全のものづくり体制の構築を図り、引き続きエネルギー使用の効率化を追求すること。 産業廃棄物は、資源循環の促進を図ると共に削減を継続すること。		
	見直し項目	変更	指示事項等
1	環境経営方針	無	産業廃棄物の発生抑制を徹底すること。
2	環境経営目標・計画	無	適切に環境経営評価をすること。
3	環境経営計画・取組事項	無	各部署エネルギー使用分析をすること。
4	システムの見直し	無	適正である。
5	部署に特化する事項	無	部署ごと特長ある環境活動をすること。

実施日 2023 年 8 月 4 日

代表取締役社長 後藤 佐恵子